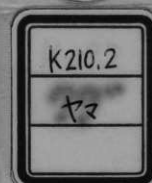


尾 尻 遺 跡

下 松 市



下 松 市 教 育 委 員 会

下 松 市 立 図 書 館

はじめに

本市の背後には低い丘陵地が連なり、そのあいまをぬつて流れる末武川、切戸川、平田川によって形成された沖積平野が南西方向に開けて笠戸湾に接しています。

山口県遺跡地図に見られるように、この一連の丘陵の南向き斜面から末武川の扇状地にかけて多くの集落遺跡が分布し、また丘陵の台地には古墳も存在しております。

この埋蔵文化財の宝庫ともいべきこの地域も、時代の波にあらわれ県道や山陽新幹線の建設が進められることになりました。幸いに山口県教育委員会が文化財保護の立場から昭和46年より47年にかけて、上地遺跡・上広石遺跡・宮原遺跡の発掘調査を実施され、48年には「上地遺跡」並びに「宮原遺跡・上広石遺跡」の報告書が刊行されましたことは高く評価されるところであり、われわれ下松市民として深く感謝するところであります。

昨年11月、尾尻遺跡の包蔵地域における業者の採土工事に関連して、山口県教育委員会文化課の積極的な指導と協力をあおぎ発掘調査したのでありますが、このたび結果を記録にとどめるため本市教育委員会の立場でこの小冊子を編集しました。

以上の諸調査により、わが郷土における弥生時代から古墳時代にかけての古代人の居住や生活などの状況変遷が、次第に明らかにされてきましたことは欣快にたえないところであります。

また、このことが昨年国の文化財保護法の改正を受けて、この本市の文化財保護条例が改正されたことと相まって、市民の埋蔵文化財に対する認識と保護が一段と高まるよう念願するものであります。

昭和51年3月

下松市教育委員会

教育長 大木



目次

I 尾尻遺跡について	1
II 溝状遺構	2
III 出土遺物	3
高杯	3
壺形土器	4
甕形土器	6
器台	7



1 甕と器台の出土状況

I 尾尻遺跡について

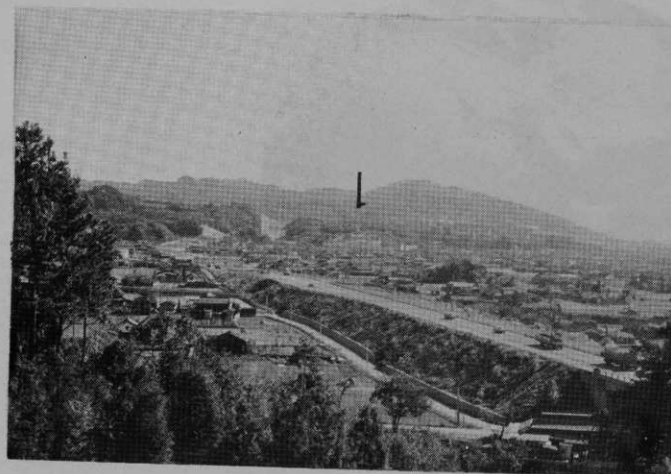
尾尻遺跡は、下松市大字末武下字尾尻にあり、弥生時代終末期から古墳時代初期にいたる村落跡です。

下松市の中央に広がる末武平野の東端部は、北山から派出した尾根が張り出して低い丘陵地となつています。遺跡はこの尾根の先端部（標高30m）にあり、平地との比高は20mです。周辺には、同じような丘陵があり、そこに御屋敷山遺跡や天王森遺跡など同時代の遺跡が多数知られています。

尾尻遺跡は、長年にわたる採土工事により、そのほとんどが消滅していました。わずかに残った尾根の斜面を調査した結果、村落を囲んでいたと思われる大きな溝が発見されました。



2. 遺跡の位置と周辺主要遺跡



3. 遺跡遠景

1. 上地遺跡
2. 宮原古墳
3. 尾尻遺跡
4. 御屋敷山遺跡
5. 天王森遺跡

II 溝状遺構

溝は尾根の北斜面にあり、幅2.5m、深さ1.5mもある大きなもので、村落の周囲を取り囲んでいたものと思われます。

（村落は、おそらく尾根の頂部にあつたのでしょう。）

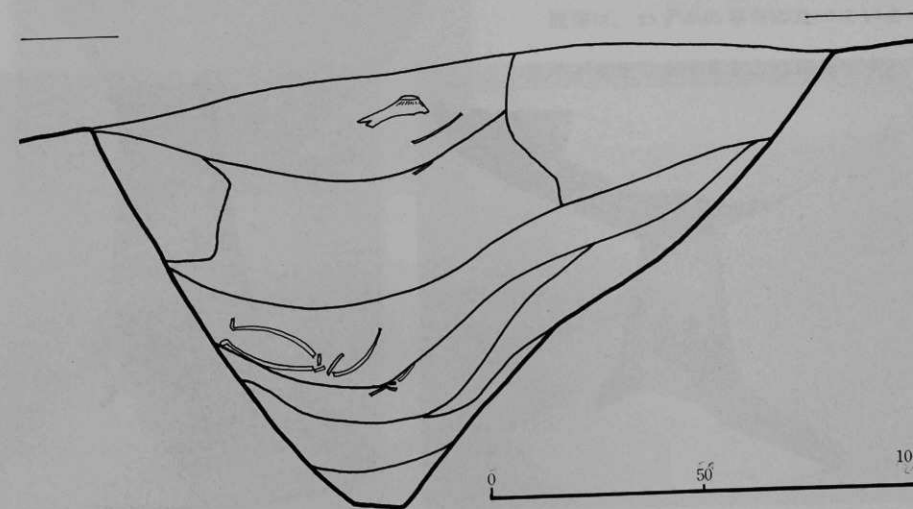
溝の断面形は「V」字形をしており、底から4つの小穴がみつかりました。この穴は、溝にかけられた橋の脚跡と思われ、村落と外部を結ぶ通路であつたのでしょう。

溝中からはたくさんの土器が投げ棄てられた状態で出土しました。溝は、永い間に少しずつ埋まり、最後はごみ棄場として利用されたのでしょう。



4. 溝の底に掘られた小穴
（橋の跡？）

5. 断面実測図



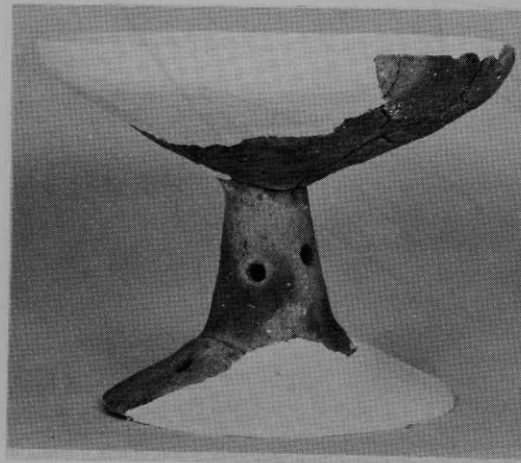
Ⅱ 出土遺物

出土遺物には壺形土器、甕形土器、高杯それに器台があります。

これらの土器は、弥生式土器と土師器（古墳時代の土器）の中間的な特徴を示しており、弥生式土器から土師器への移行過程を知るうえで重要な資料です。

高 杯

高杯は、果物などを盛る容器で、
裾の開いた脚の上に浅い杯を乗せた
形をしています。脚部には、円形の
すかしあな
穴（透孔）があげられています。
杯部は、口縁部が内側に彎曲するも
のと、外側へ開くものの二種があり
ます。



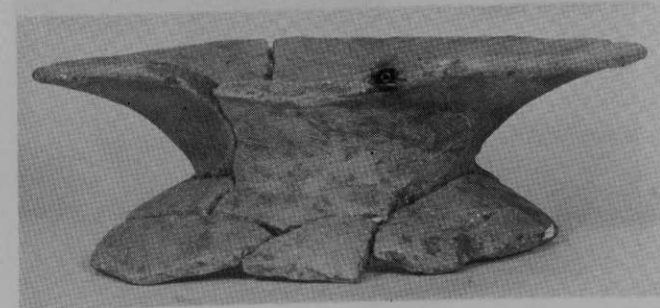
口縁部に斜格子の文様がある

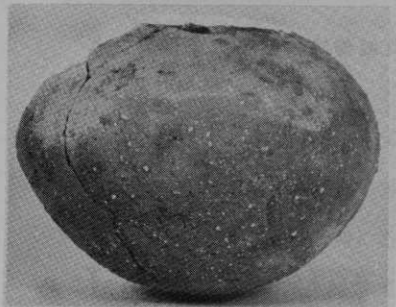


壺 形 土 器

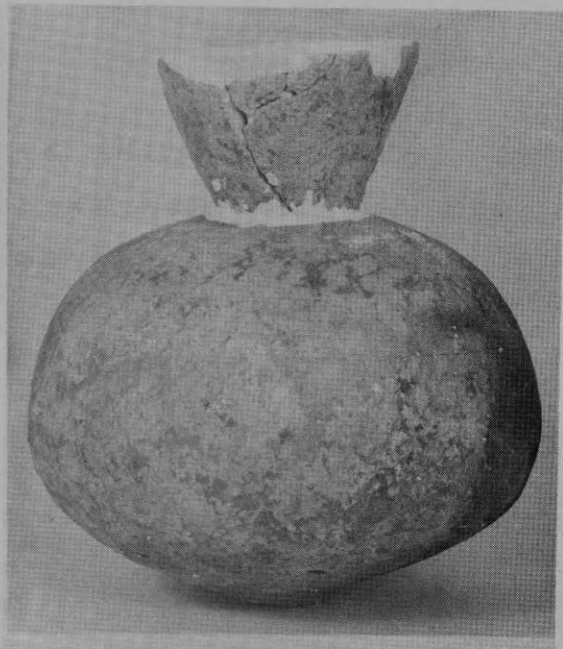
壺は、食物などを貯蔵する容器です。
口縁部が短くてわずかに開いたもの
（直口壺）、外側に大きく開いたもの、
「く」字形に彎曲したもの（複合口縁）
などがあります。

底部は、わずかに平らになつていま
すが不安定で立てることは困難です。

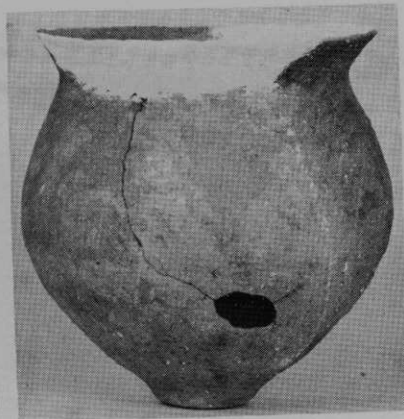
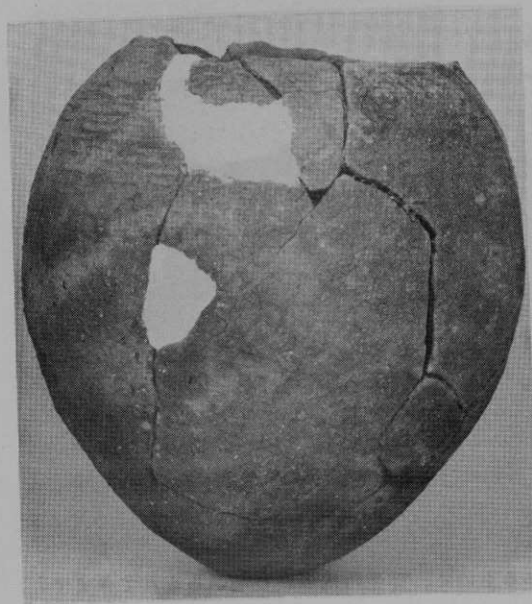




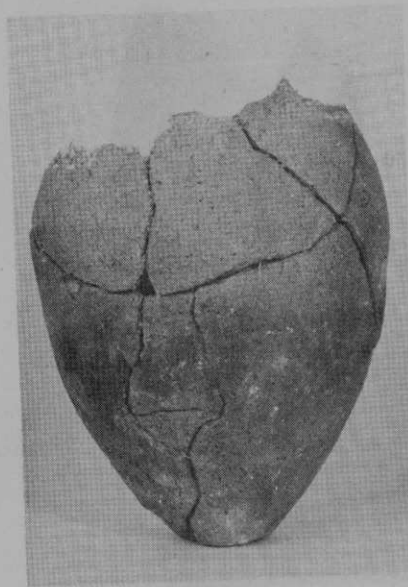
直口壺



口縁部と胴部の境に
突帯を貼付けている。

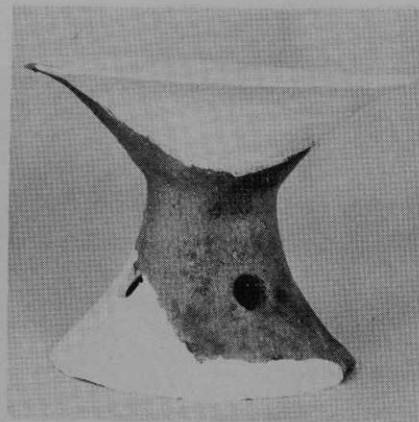
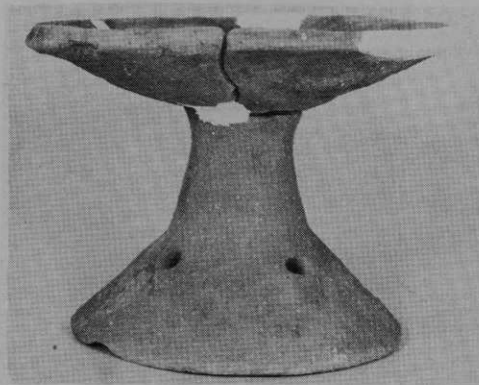


甕形土器



甕は、湯をわかしたり、食物の煮焚き
に使用されるものです。

外側は、火を受けて赤く焼けたり、
煤のついたものがあり、内側には有機
物がコゲついたりしています。

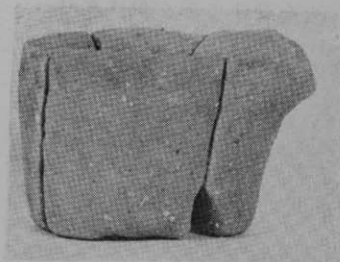
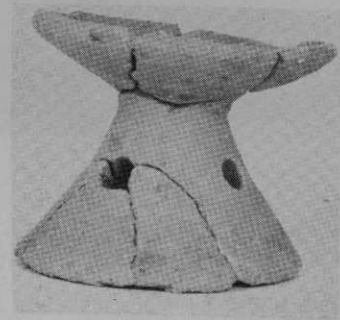


器 台

器台は、壺形土器の台として使われます。

これは、壺の底が不安定なために用いられるもので、弥生時代の終り頃から現れてきます。

形は高杯に似ており、脚部には透孔があげられています。



尾 尻 遺 跡

下 松 市 尾 尻

編 集 山 口 県 教 育 庁 文 化 課

発 行 下 松 市 教 育 委 員 会

1 9 7 6 年 3 月

印 刷 睦 美 マ イ ク ロ 株 式 会 社

